

経営学び起業へ一歩

三原市が支援講座

20～40代 9人参加

新たな産業の創出や活性化につなげようと、三原市は22日、起業を支援する講座「スタートアップ創出シ

ティカレッジ」を開講した。

県立広島大や、世界の起業家ネットワークであるE.O

(起業家機構)中四国支部、

地元経済界などが協力。参加者は来春の講座修了をめ

どに事業計画を完成させる。

市内の会社員や起業の準備を進める20～40代の9人

が参加した。この日は新型コロナウイルスの感染拡大

に地元金融機関などの支援

を受け、オンラインで開いた。岡田吉弘市長は、開講式で「描いているビジネスプランを小さくてもいいので実現してほしい。全力で支援する」と激励した。

続く講話は、市出身でE.O中四国支部の吉村公孝会長たちが担当した。吉村会長自身が創業し、社長を務める情報通信技術のベイスが東京へ進出して事業を広げた経験を紹介。「伸びる市場を狙い、オンラインの強みをつくり、勝ちパターンを見つけて展開を」などとアドバイスした。

講座は月1、2回で3月20日までの全9回。参加者は県立広島大の教授陣やE.O中四国支部のメンバーたちから経営戦略やマーケティングの手法を学ぶ。さらに

を受け、資金繰りなども含めた起業への事業計画づくりを進める。

参加した看護師西原康平さん(35)は、人生の最期を自宅で迎えられるように訪問看護の会社設立を目指す。「経験がない経営のノ

ウハウをしっかりと学びたい」と意気込んでいた。

市は、起業を後押しする機運を高めることで交流人口の拡大や移住・定住の促進につなげたい考え。来年以降も開催を検討する。

(川崎崇史)